

【科目情報】

授業コード	1FCB201010	科目ナンバリング	FCALAW71008-J1
授業科目名	民法A（総則・物権総論）		
担当教員氏名	杉本 好央		
開講年度・学期	2022年度前期	曜日・時限	月曜1限、金曜4限
授業形態	講義		
単位数	4単位		

【シラバス情報】

授業概要	本講義は、民法総則、物権法（用益物権及び担保物権は除く）を対象とする。講義の各回において、あらかじめ配布されたレジュメに即して、各法制度又は法概念の概要を説明する。また、レジュメに示された設問について参加者の考え方を尋ね、参加者に答えてもらう。
到達目標	本講義の到達目標は、①民法総則および物権法（用益物権及び担保物権は除く）の分野にある各法制度又は法概念について、その意義（定義と趣旨）、要件および効果を正確に理解して説明できること、②典型的な事例と結びつけて①を説明できること、③代表的な判例および学説を上記の①または②との関係で説明できること、である。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	導入プログラム 条文の構造と読み方、判決の調べ方と読み方について学ぶ。	事前学習：教科書①を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた項目のみならず、関連する項目も含めて、教科書を利用しながら、確認する。
第2回	条文の解釈と適用 条文の解釈および適用の方法について学ぶ。	事前学習：教科書①を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた項目を、教科書を利用しながら、確認する。
第3回	民法の体系、構造、基本原則 民法全体を概観して、また他の法分野と対比して、民法の内容や特徴について学ぶ。	事前学習：教科書①を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた項目を、教科書を利用しながら、確認する。
第4回	民法と裁判 裁判手続のなかで、民法の条文がどのように作用するかについて学ぶ。	事前学習：特になし。 事後学習：授業で扱われた項目を、参考文献を用いて確認する。
第5回	法律行為と意思表示 法律行為と意思表示の構造と効力発生時期、法律行為の解釈、信義則・権利濫用の法理について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。

第6回	法律行為の効力否定原因 法律行為の効力否定原因、公序良俗違反の意義と内容、無効及び取消しの概念について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第7回	心裡留保、虚偽表示、錯誤 心裡留保の意義と内容、虚偽表示の意義と内容、錯誤の意義と内容について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第8回	詐欺、強迫、消費者契約法上の効力否定原因 詐欺および強迫の意義と内容、法律行為に関連する消費者契約法の規定について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第9回	意思能力と行為能力 意思能力の意義、行為能力の意義と制限行為能力者の保護、無効な行為を理由とする原状回復に関する規律について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第10回	代理の構造 代理の基本構造、代理権の発生・範囲・制限・消滅、代理行為における顕名および瑕疵、代理人の行為能力について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第11回	無権代理と表見代理 代理権なくして代理行為が行われた場合における相手方と本人の法関係、相手方と代理人の法関係、本人と代理人の法関係について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第12回	代理法の諸問題 白紙委任状と表見代理の関係、無権代理行為後に相続が生じた場合の法関係について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。

第13回	条件、期限、期間 法律行為の効力の発生又は消滅にかかわる法形式である条件、期限、期間の意義と内容について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第14回	権利能力、不在者の財産管理、失踪宣告 権利能力の意義と内容、不在者の財産管理、失踪宣告について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第15回	法人 法人の意義、種類、代表、法人の取引と構成員の責任、権利能力なき社団について学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第16回	時効概論および消滅時効 時効の存在意義、時効の完成猶予と更新、時効の援用について、消滅時効を中心として学ぶ。	事前学習：教科書②の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第17回	知識の確認 課題に取り組むことで、これまでの授業の内容を理解しているか、又、それを適切に表現できるかを確認する。	事前学習：これまでの授業内容をまとめる。 事後学習：自分のまとめと照らし合わせながら、授業内容を確認する。
第18回	物権総論、物権的請求権、占有訴権 物権の種類と性質、物権的請求権及び占有訴権の形態について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第19回	所有権の性質、取得と喪失 所有権の内容（相隣関係）、取得および喪失の方法に関する規律について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。

第20回	共有 共有の意味、共有の内部および外部関係、共有物の分割に関する規律について学ぶ。	事前学習：教科書③および参考文献の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第21回	意思表示による物権変動（1） 物権変動の枠組み、意思表示による物権変動、不動産物権変動の公示と対抗について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第22回	意思表示による物権変動（2） 民法 177 条の第三者、不動産登記の要件と効力について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第23回	物権変動と登記（1） 無効および取消しによる物権変動と登記の関係、登記に公信力類似の機能を認める 94 条 2 項の類推適用について学ぶ。	事前学習：教科書②および③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第24回	物権変動と登記（2） 解除による物権変動と登記の関係、法定相続、遺産分割又は遺贈による物権変動と登記の関係について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第25回	知識の確認 課題に取り組むことで、これまでの授業の内容を理解しているか、又、それを適切に表現できるかを確認する。	事前学習：これまでの授業内容をまとめる。 事後学習：授業後に指示する。
第26回	占有の意味と機能 占有の構造と種類、占有が果たす機能、本権との関係について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。

第27回	取得時効 取得時効の要件と効果について学ぶ。	事前学習：教科書②および③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第28回	取得時効と登記 取得時効による物権変動と登記の関係について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第29回	動産物権変動と即時取得（1） 動産物権変動における公示と対抗、即時取得の要件および効果について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第30回	動産物権変動と即時取得（2） 動産物権変動の対抗と即時取得の関係、盗品又は遺失物に関する例外、立木等の物権変動の公示について学ぶ。	事前学習：教科書③の関係部分を読み、レジュメに示された設問に対する解答を用意する。 事後学習：授業で扱われた内容のみならず、関連する項目も含めて、教科書および判例集を用いて、自らの手で整理する。
第31回	期末試験	

成績評価方法	(1) 到達目標の達成度について評価を行う。 (2) 評価方法 相対評価（期末試験 80%、小テスト又はレポート 20%） (3) 単位修得のための最低基準 民法総則および物権法（用益物権及び担保物権は除く）の分野にある各法制度又は法概念の意義（定義と趣旨）、要件および効果を、典型的な事例又は代表的な判例及び学説と結び付けて説明できる。
履修上の注意	積極的な参加を求める。

教科書	①道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、第2版、2017年） ②佐久間毅『民法の基礎1 総則』（有斐閣、第5版、2020年） ③佐久間毅『民法の基礎2 物権』（有斐閣、第2版、2019年） ※②及び③については、小さな字で書かれた部分はさしあたり読まなくてもよい。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山本敬三『民法講義Ⅰ 総則』（有斐閣、第3版、2011年） ・七戸克彦『基本講義 物権法Ⅰ』（新世社、2013年） ・潮見佳男／道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ〔第8版〕』（有斐閣、2018年）
その他	